

2005 年 (平成 17 年)
4 月 1 日金曜日 (毎月 1 日発行)

1 部 50 円 (消費税込・送料別)
発行所/天台宗出版室
発行人/出版室長 工藤 秀和
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内
電話 077-579-0022 (代)
Eメール/T-Press@tendai.or.jp

総登山・総授戒
あなたの中の
仏に会いに

福岡西方沖地震被災者の皆様に
謹んでお見舞いを申し上げます
天台宗
一隅を照らす運動総本部

◎開宗千二百年慶讃大法会事業

御廟屋根葺き替え完成



昨年九月から行われていた比叡山西塔「浄土院御廟」の銅板屋根葺き替えと同庫裡唐門の改修工事が完成した。浄土院は、宗祖伝教大師最澄上人の祖廟であり、霊峰比叡の中で最も深厳な聖域である。開宗千二百年慶讃大法会の一環として「総登山運動」が今月から展開されるが、その期間中は特別に、午後のみ拝殿の伝教大師御真影に参拝できる。

総登山の期間中特別に
拝殿宗祖御真影参拝が

法の灯

十七文字の心
天台宗布教師会理事 後藤 仁田

菜の花や桜の便りが届く
昨今ですが、北国はまだ春
寒しといったところです。
月に一度、ある施設に面
接を兼ねて句会に行きま
す。教室は平均七、八名、
五句を投じて清記、互選、
披露と一般の句会と同じ形
で、その仕事も分担しま
す。時期により、修正会や
花まつり、彼岸などの話を
します。両親や妻、また子
どもの入学・卒業・結婚の
ことなどを十七文字とい
う最も短い詩の世界に心を表
現します。透句を褒められ
ると、照れたりにはかんだ
りする笑顔は仏さまのよう
に見えます。古里の自然や
親の恩を思った時、心を大
きく動かし反省が生まれて
くるように思われます。
誰にも過ちはありますよ
うが、気づいた時「ごめん
なさい」と言える人こそ、
人間の心の持ち主、仏さま
の心でしょう。
法華経の教え、伝教大師
さまの説かれた「悉有仏
性」でありましょう。
仏さまの心、笑顔がいつ
も私達の日常生活に見られ

るようにと願ってやみませ
ん。明るい世の中に!!
● 昨年の教室の句句をこ
下さい。
・あやめ咲く 庭に楽しく
父母の顔
・読み返す 妻の便りに
つゆふかし
・寒月や 心の内を
映しをり
・サクラサク 便りが届き
ほつとする
・更生を 誓ひおがみし
初日の出
・親心 ストープよりも
あたたかし
・人の恩 忘れしこの身
ただ寒し

浄土院の屋根葺き替えは、数
十年ぶり。予想以上に痛みが
激しく、追加工事を施し、こ
の度の完成となった。総工費
は四千万円。

浄土院は、宗祖伝教大師の
祖廟であり、現在は十二年籠
山行の道場でもある。伝教大
師は、比叡山で修行し、比叡
山で学問するということを重
視され、修行を行う場所の清
浄さと環境の大切さを説か
れ、十二年の間、山上の結界
から一步も出ない籠山行を定
められた。比叡山の行中、最
も厳しい行として知られる。
浄土院に籠もる僧を比叡山で
は「籠山比丘」と呼び、正式

には「侍真」といい、御真影
に侍するという意味である。
現在の侍真は宮本祖豊師。
侍真は、伝教大師が、今も
生きておられるがごとく仕え

参道整備や石灯笼寄進も

普段、参拝者は浄土院の拝
殿に入ることは許されない。
しかし平成十五年から「総登
山・総授戒」あなたの中の仏
に会いに」のスローガンで始
められた開宗千二百年慶讃大
法会が、比叡山への総登山運
動を四月から三万回展開す
るにあたり、特別に午後一時
から三時まで拝殿の扉が開か
れ、外からではあるが伝教大
師御真影を拝することができ
ることになった。

これまで、開宗千二百年慶
讃大法会は、檀信徒総授戒連
動を展開してきており、西郊
良光宗務総長は「是非、この
機会に浄土院に参拝され、大
師のお心に触れ、総授戒で結
んだ仏縁を報告して欲しい。」
と述べている。
今後は、浄土院の参道改修
工事が行われ、今夏には整備
を終える。
また天台宗の各教区では、
浄土院の参拝道に七尺の仏前
石灯笼を寄進することを決め
た。秋の大法要には、二十九
基の石灯笼が参道に報恩の彩
りを添える。

三月二十日に発生した、福岡県西方沖を震源とするマグニチュード七の地震では、福岡県福岡市や佐賀県みやき町で最大震度六弱を観測しました。

天台宗務庁では、直ちに総務部、社会部をはじめとする担当部局が、当該教区の情報収集にあたり、各寺院の被害状況の把握につとめました。

数カ寺に壁のひび割れや、灯籠の倒壊がみられたものの、ほとんどの寺院では被害がなく、住職や寺院にも人的被害はありませんでした。檀信徒の皆さまの被害については、

は、各寺院で調査中ですが、被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

二十一日現在、震度一以上の余震は百十回観測されており、震度三以上の余震が二十日二十時以降三回発生するなど、余震は引き続き発生しています。

私どもの電話調査でも「四十秒近く揺れ、余震が続いて不安だ」という声が相次ぎました。その不安の中でも、寺院住職が第一に檀信徒の皆さまの安全確認に奔走されているというお話には頭の下がる思いがいたしました。

かつて、ある高僧から「宗教者の使命というのは、つまるところ、不幸に遭われた方にどれだけ心を寄せることができるかどうかだ」と教えられたことがあります。

他者を思いやるということ「己を忘れる」ということです。天災などないに越したことはありませんが、逆にいえば、その時にこそ住職の真価が問われます。昨年の中越地震でも殆どの住職が「他を利する」という視点に立って行動されました。宗祖大師の教えは、現代に脈々と生き続けていることを感じます。

地震

天台宗出版室長

工藤 秀和

鬼手仏心



花想風言

あれは半世紀も前のこととなる。新聞社へ入社した年の冬、北海道へ出張した。上野からの夜行列車を乗り継ぐ青函連絡船の時間待ちで吹雪の町に出ると、頬かぶりをして雪まみれになったリング売りのおばさんが「あんちゃん、買ってけれ」と寄ってきた。小僧暮らしの頃は大きくなってみずみずしいリングを見たことも食べたこともなかったから、半年前までの小僧仲間リングの大箱を送った。

間髪を入れず、師匠の故叡南祖賢さんからころあふれるはがき。

「おおきに 青森から徳が送ってよこしたと小僧たちはお喜びじゃ うまい うまい むしゃむしゃ あんじょうきばれ」

第13回 リンゴの花 福田徳衍 (文・写真)

それから四十年が過ぎ、千曲川沿いにリンゴの木が茂る飯山の寺を兄弟子の肝いりで、預かることになった。リンゴの花の香りが風につて寺の縁側まで匂ってくる春のひるさかり、はるけくも昔になった小僧の時代が無性に懐かしくなってくる。

リンゴはサククラと同じバラ科で中央アジアの山岳地帯が原産地だ。淡いピンクの花びらは五弁で、花がサククラよりも長く楽しめる。

明治初年、外国人の技師によって北海道、青森、長野など寒冷地に植えられた。品種の改良が進んで、世界中で七五〇種あまり。いまでは日本産が世界一といつてよい。

◆プロフィール
一九二八年東京生まれ。十歳から十二歳まで比叡山で小僧生活をして過ごした。元朝日新聞社記者、信越教区新潟部、徳法院住職。俗名 福田 徳郎。

インド霊鷲山紀行 (2)

九州東・霊山寺住職 植田 恵秀

インドは十億人の人口を有する広大な国です。今回は、東部ビハール州の仏教遺跡を訪ねました。

手配していた車の冷房が故障していたために、窓を開けっ放しにして走りまわりました。そのため、砂埃と騒音と匂い

を思い切り吸い込むことになりました。いきなりインドを感じました。

釈尊が初めて五人の弟子に教えを説き、説法をしたサルナートの地には、巨大なストーバ(仏塔)が建っています。菩提樹の下で悟りを開か



れたブツダガヤにある大菩提寺は高さ五十二メートルの大塔です。全国から巡礼が訪れ、五体投地をしている人々が大勢います。菩提樹の前で、巡礼の祈りを聞きながら、仏陀誕生の瞬間を思い、感無量でした。

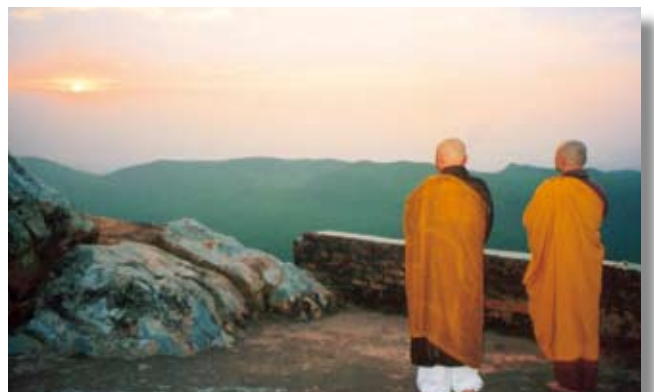
朝五時半にホテルを出て、霊鷲山に向かいました。まだ外

は暗い。ガードマンを雇います。カメラやビデオなどを持っていったためありますが、なかなか物騒だということだからです。ガードマンは地元警察官がアルバイトでやっています。途中に立っていた警察官に、彼が「おまえも、来い」といつとついてきました。鷹揚なものです。

当時のマガダ国王ビンピサー(頻婆娑羅王)は、深く釈尊に帰依し、釈尊の説法を聞くため、多数の人員を動員して、麓から山頂まで石畳を敷きつめ階段を作りました。王はその道を登って、足しげく聴聞に通ったということです。現在の登山道はコンクリート舗装されていますが、当時の石畳が露出し、ビンピサー・ロードと親しまれており、巡礼たちが、五体投地を繰り返しています。

霊鷲山の入り口では、裸足になります。インドの聖地のほとんどは、裸足になることになりまして、ラージギルで「つつかけ」を買いました。足に合わずマメが出来て困りました。猿や鳥やコウモリの鳴く声があります。釈尊が住んでいたという香室があります。八畳ぐらいのもので、目連やアナンがいたといわれる雨露をしのぐ洞穴もありました。ここは釈尊が法華経を獅子吼されたという場所です。なるほど、ここで話せば麓まで声が届くような気がします。下からの声も上がってきます。

ここで、如来寿量品のお勤めをして、ご来光をおおぎました。二千五百年前に思いをはせ、釈尊の偉大さに感動すると共に、はるばるインドまで来た喜びが湧きました。



將軍木（かつのき）で作られた六角柱の小間木と、それを五升詰め込んだ蘇民袋。この袋を裸の男達が奪い合う

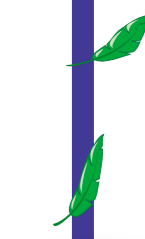


A Story in the Tendai

千年の奇祭を司る おばさん住職

陸奥・黒石寺住職 藤波 洋香 師

仏と生きる



Vol.12

電話で取材約束をした声は力に充ち満ちて強く、そのためエネルギーが豊富な尼僧を想像していた。しかし、庫裡に現れた女性性は、鶴のごとき瘦身。墨染めの衣に輪袈裟をかけ、有髪である。この人が、と私は思った。中央にはほとんど知られていないが、千田孝信中尊寺貫首や西郊良光宗務総長が「逸材」と激賞してやまない、岩手県水沢市の黒石寺住職、藤波洋香か。と。眼鏡の奥の目が炯々とし、住職というより巫女の雰囲気がある。

生活に密着した仏教

妙見山黒石寺は、七二九年（天平元年）行基菩薩の開基で、八四九年（嘉祥二年）慈覚大師が復興した由緒ある古刹だ。伊達藩の庇護を受けて栄えたが、明治の廃仏毀釈で衰え、戦後の農地解放で壊滅的な打撃を受けた。洋香の祖父が住職をした後は無住寺院。廃寺寸前まで追い込まれていた。その祖父が住職していた昭和三十年代も、無惨な状態だった。

由緒はあってもカネはない

「はい、なにしろ檀家は十五軒。お葬式は、十年に一度です。祖父の娘が、洋香の母だ。両親は寺ではなく水沢市に住み、父は教師。『父も寺は継ぎませんでしたし、私の弟も拒否しました。当然洋香も『由緒はあっても極貧の寺』など、継ぐ気は『さらさら無かった』。それが大正大学の大学院生の時、塩入良道教授から『信仰とは、人間を信じること。人間の中にある仏性を信じて』と教えられて目が覚めた。郷里に帰って三年の市役所勤務を経て、昭和五十五年黒石寺住職となる。

も庫裡もポロポロ。支えたのは「釈尊は『人生は苦である。しかし、生きるに値する』と説かれている。苦の中から、肯定的な道を探るように生きようよ、という強烈な自意識。うむ、手強い。『自分の同級生やPTAの

人たちに、高いところからテーマの小難しいこと言ってる誰か聞きますか。私の話、おばさんの立場から考えれば、なんだかな。その日暮らしてやれる。裏の畑じや白菜や、大根も作ってるし。ちよつと、あなた、本庁からウチの収入調査に来たんじゃないでしょうね。いえいえ、そんなつもりはありません。でも、これだけの由緒寺院なら、女性住職に反対もあつたのでは？

「全然、檀家も住職に来てくれるのなら誰でもいいと思

かるヨ」と、まず寄り添うことが大事なの。それでないと心が通わない。でも井戸端会議じゃないよ。そこはプロです。普段は、普通の主婦感覚で暮らしている。夫の給料は上がった方がいい、子どもの成績も上がった方がいいというおばさん。だいたい自分に分らないことを、理屈こねて人におしつけて何になるの？」



百人を超える裸の男達たちが、小間木（護符）を奪い合う日本三大奇祭の一つ「黒石寺蘇民祭」

男千人の裸まつり

ここで、日本三大奇祭のひとつであり、国指定重要無形民俗文化財に指定されている黒石寺蘇民祭についてふれ

る。

黒石寺蘇民祭は、旧暦正月七日に、五穀豊穡と災厄払いを願う裸祭りである。数百個の小間木（護符）が入った蘇民袋を、百人を超す裸の男たちが徹夜で奪いあう。ほとんど喧嘩といって悪ければ、何でもありの祭りである。かつては死者も出たという。壮大なフアイトである。小間木を得たものは、その年の幸運が約束されるという。

僧の修行 シャバの修行

蘇民祭は、異民族討伐の必勝祈願を、その歴史に秘めているのではないかと思われる。形は、そのまま合戦である。相手の頭領の首を握ったものが勝者となることも象徴的である。蝦夷征伐をした坂上田村麻呂が、八〇七年（大同二年）に黒石寺の本堂を再興していることは、とても興味深い。そう考えれば、一週間の精進を経て、当日は蘇民袋が供えられた本堂で、別当として護摩を修する洋香は、戦勝祈願をする巫女であるともいえる。女性であることや、有髪であること、より一層の呪術性を発揮しているのではないかと思えるのだ。

洋香は何度も「僧には僧の行があるように、シャバにはシャバの行がある」と言っていた。彼女自信は、厳しい行はしていない。しかし寺に籠もって漫然と住職をしているわけではない。二十五年間、自分を頼ってくる人をどう救うかを考え続けてきた。内省の人でもある。常に自己とは何か、生きるとは、仏教者とは何かを毎日自分の心のひだに、コツコツと当てて考えてきた。逆説的にいえば、寺院の経済的安定があれば、その



黒石寺庫裡にて、愛犬ルイスと。境内に捨てられていた二頭を、学校の陸上部所属の息女と「カール」と「ルイス」と名付けた。カールは先年、交通事故で死去

蘇民祭前の一週間、黒石寺は精進に入る。住職ばかりではなく、家族ももちろんである。別火精進であるから、黒石寺で煮炊きしたものを口にするのが出来ない。子どもたちの給食も一時止めるし、お茶もポットに入れて夫や家族に持たせる。ご主人も仕事帰りに、同僚と一杯など論外だし、子どもたちも買い食いももちろん、自動販売機のお茶も許されない。千年続いている宗教上の禁忌である、掟である。理も知も出る

文・天台宗出版編集長 横山和人

コンパス 天台宗機顧問 杉谷義純



二十一世紀の 日本の進路

本年は終戦六十年を迎えた。これは同時に広島、長崎原爆投下六十年であり、東京大空襲はじめ、全国主要都市無差別空爆六十年でもある。そして犠牲者は老人、女性、子どもなどの非戦闘員で、その数は二百万人を越えた。焦土の中からの復興は容易なものではなく、一方莫大な賠償金の支払いも余儀なくされたのである。しかしこのような状況の中でも、日本人は必死の思いで立ち上がり、文字通り命がけで働き、驚異的な戦後復興を成し遂げた。さらに賠償金はすべて支払い、放棄した中国に対してもODA（政府開発援助）の名目で賠償に代るものを支払いつづけている。これらもすべて国民の汗水の結晶である。一方日本政府は戦争放棄を定めた新憲法を公布、侵略した国々に対してその非を認め、何度も謝罪を重ねてきた。そして日本側から見れば、もう十分ではないかとさえ思う。我々だって世界唯一の被爆国であり、多くの犠牲を蒙らなかつたわけではない、との感があるからだ。だが日本人の傷は経済復興、そして経済大国に成長していく過程で薄れていった。自助努力による達成感がそうさせたのである。しかし中国や韓国にしてみれば、ひどい仕打ちをした国が幾許かの償いをしたものの、経済繁栄をいいことに、見下したような姿勢に見えれば、心穏やかなものではなからう。なにか切つ掛けがあれば、再び恨みが噴出する。例えばそれが失政による不満が原因だとしても、矛先を向けられた日本が反論すれば、火に油を注ぎかねないのが現実である。誠意ある金品でも、所詮他人からもらつたものは、一時的に飢えをしのぐことはできても、心まで癒すことは難しい。日本は明治維新で外国からの圧力を跳ね返すために富国強兵策をひた走りの走つた。そしていつの間にか列強の仲間入りをしたと錯覚、大戦争に突入、敗退し、未曾有の苦しみを経験した。結果となつた。軍事路線の失敗である。戦後は一転平和国家をめざし、経済路線に転じた。やがて世界第二の経済大国ともはやされた。までは良かったが、冷水を浴びせられ、不況のどん底に突き落とされた。そして経済援助で結ばれていた国との関係が、金の切れ目は縁の切れ目になりかけない危惧が生じている。さてこれからの日本の進むべき道を考えてとき、それは真の文化国家であろう。人類の未来を切り開く文化を発信し続ける国こそ、敬意をもって迎えられるのである。そのためにも、まずもう少し自国の伝統文化を大切にすることが求められる必要がある。

本堂屋根葺き替え完成 檀信徒会館も落成 ～九州西・安福寺～



「みつど（水堂）さん」の愛称で地元の人たちに親しまれている九州西教区の安福寺（嘉瀬慶昭住職）では、この程本堂屋根の葺き替えを行うと共に写真、安福寺霊殿（檀信徒会館）を完成させ、去る

三月二十六日に西郊良光宗務総長始め、一宗の関係者多数臨席のもと落慶慶讃法要を厳かに執り行った。安福寺は佐賀・白石平野を見下ろす杵島山の中腹にあり、奈良時代の開基と言われ

る古刹。平安時代、平清盛の孫である高倉天皇が病気の時、同寺の霊水を飲ませたところ、病が治つたという。この由緒から同寺では、毎年旧暦の四月十五日から七月十五日まで「出水法要」を営んでおり、この法要は平安末期の約八百年前から続く伝統行事となつている。今では日本三大水祭りの一つとして名高く、期間中は「お水うけ」に訪れる人々で賑わい、参拝者は三万人から四万人に上るといふ。霊水は悪霊退散、家内安全に効き目があるといわれ、仏前にも供えられる。落慶した安福寺霊殿はこうした参拝者への接待などにも活用されることになる。

今回の落慶に当たり、嘉瀬宗務所長の方々に始

天台トピックス

◎宗務所長会議を開催
三月十日から十二日にかけて、全国宗務所長会の定例総会と、第六十八回宗務所長会議が天台宗務所にて開催された。

◎一隅地方本部長会議、事務局長会議を開催
一隅を照らす運動総本部では、宗務所長会議と併せて、地方本部長会議を開催した。また、十六日には実務担当である各教区の事務局長を集め、

定例総会では、本年が開宗千二百年慶讃大法会の最重要年度に当たることから、浄土院参道に各教区が灯籠を奉納することを決定。大法要期間中に設置される。

福岡でM7.0の大地震

去る3月20日に起きた福岡西方沖地震では、玄界島の家屋倒壊など、福岡市を中心に大きな被害を出した。死者や負傷者は福岡、佐賀、長崎各県で合計七百名を超え、家屋の損壊も全壊、半壊を含め八百戸近く上っている（22日現在）。また、国の重要文化財や史跡にも被害がでており、天台宗の寺院関係でも軽度ではあるが、被害が出ている。主に福岡県と佐賀県の各寺院での被害であるが、本堂に奉安してある阿彌陀仏が倒れたり、灯籠の倒壊、建物の瓦のずれ、お堂の壁に亀裂が入ったりするなどの比較的軽度の被害に留まっている。天台宗務所としては、今後も調査を進めて被害状況の把握に努めていく方針である。

祝 新任職任命

- 【埼玉・浄光寺】 林 康達師
 - 【南総・寶性寺】 吉野俊正師
 - 【茨城・觀明寺】 飯塚亮俊師
 - 【東京・無量寺】 桐山宗彦師
 - 【茨城・金山坊】 中村純崇師
 - 【神奈川・不動院】 宮本英信師
 - 【茨城・大圓寺】 榎戸俊道師
- （平成17年2月18日〜平成17年3月22日 法人部調）

示 寂

- 正見 真隆師
- 平成17年2月23日遷化
- 四国教区久米寺住職
- 3月26日日本葬儀執行
- 内田 高順師
- 平成17年3月2日遷化
- 神奈川教区大乗院住職
- 3月8日日本葬儀執行

◎BS宗教第2教程講習会
三月二十六日から三日間の日程で、天台宗スカウト連合会が「天台宗仏教第2教程」を比叡山居士林で実施、全国から三十八名のスカウトが参加。参加者は天台宗の教義や坐禅止観などを体験し、修了証を手渡された。

◎仏青連盟法灯りレリーフ灯式
四月十九日 延暦寺・根本中堂

第2期 續天台宗全書 全十巻 予約購入募集中！ 天台宗特価

入手困難な佛典の画期的翻刻印刷 天台宗典編纂所編 春秋社刊行

第2回配本 宗要光聚坊 下

天台宗典編纂所 FAX 077-579-6639

ぜひ寺院に1セットお備え下さい。

お問い合わせ 天台宗典編纂所 電話 077-578-5190

第1期全15巻は完結終了しました。有り難うございました。

◎前半一括前払い 100,000円 (5巻代金・消費税・送料込)

◎各巻前払い 21,630円 (1冊代金・消費税・送料込)

ご購入には上のどちらかをお選び下さい。



念願の常設宗務所落慶

教区内寺院の土地建物無償貸与を受けて

神奈川教区

三月二十五日、神奈川教区（大久保良允宗務所長）では、予てからの念願であった教区宗務所の新設、改装工事が円成し、落慶法要が厳修された。

今回落慶した宗務所（写真左上）は、同教区大聖寺住職山本忍友大僧正から、自坊所有地の建築物を宗務所として提供したとの申し出を受けたもので、昨年四月に宗務所設立委員会を発足させた。

金を合わせた特別会計から、総額五千二百万円の内、改装費をかけた、昨年末には無事改装工事が完了した。地上四階建て、総床面積は九十九坪である。一階は事務室、二階に仏間と教区議会や主事会などに利用される会議室、三階には所長室などがあり、新たな宗務所で宗務が執行されることとなった。



長を導師に教区内住職が出仕して行われ、西郊良光宗務総長から山本住職はじめ、工事関係者に感謝状が手渡された（写真左下）。

二十八日には開所式が行われ、宗務所は週二回、火曜日と金曜日の午前十時から午後四時まで開所される。

混迷を深める青少年問題について、二月に招集された宗務会で「ジャーナルで取り上げて欲しい」との要望が出された。その第一弾として、中尊寺の千田孝信貫首に一年間連載をお願いし、快諾を頂いた。千田貫首は栃木県日光高

特別授戒会執行状況 (4月23日現在)

◆東海教区第7部
真福寺・2月27日
三千院探題大僧正

戒弟247名

特別授戒会の状況と予定は、ホームページ
<http://www.tendai.or.jp/>
からもご覧頂くことができます。

デスクから

デスクから
混迷を深める青少年問題について、二月に招集された宗務会で「ジャーナルで取り上げて欲しい」との要望が出された。その第一弾として、中尊寺の千田孝信貫首に一年間連載をお願いし、快諾を頂いた。千田貫首は栃木県日光高

校教諭として長く教育の現場に携わってこられた。その体験から、現代社会の抱える病巣を易しく説いていただきたいとお願いした。貫首は「読み終われば、そこにはほかに仏さまの香りがするよう書きたい」と語られた。ご愛読をお願いいたします。カットには、京都市山科区にあるアトリエ「ウーフ」（酒谷佳子さん主催）の人々の絵を使う。アトリエ・ウーフは四歳から六十歳までの、知的障害を持つ人々と健常者が共に絵を学び描く場所。絵は、みな個人的で明るい色遣い、のびやかな線である。●黒石寺の蘇民祭は、写真を見るとフンドシも外してしまっ、全裸の人々が結構いる。紙面掲載の写真は公序良俗に配慮して大胆にトリミングした。全裸の理由は宗教上のことともいい、なまじフンドシなどしている、引張られて危険だからともいう。

一隅を照らす運動年次大会

組織改編後の活動内容を確認

群馬教区

群馬教区檀信徒会連盟（毛呂武雄会長）では、三月三日・四日の両日、伊香保町の「ホテル小暮」を会場に、平成十六年度一隅を照らす運動年次大会を開催、教区内寺院住職、檀信徒合わせて四百二十名が参加した（写真）。

行われ、十七年度から一隅を照らす運動の組織改変がなされるにあたり、壬生部長は今後の一隅を照らす運動推進について話した。また、サンガ住職は「インドにおける仏教事情」についての講話の中で、「カースト制度の上に成り立つインド社会。こうした社会に向き合うために大乘仏教の復興を願ひさまさまな活動を行っている。それは社会



福祉活動ではなく、信仰であり布施行である。今後も禅定林で伝教大師のみ教え、仏教を根付かせたい」と話した。

グリーン・ウォーター・エイド & ウォーク in 比叡2005

緑と水、そして比叡山に親しむ会

参加証

(平成17年4月23日 土曜日)
AM9:30 ~ PM3:00 (雨天決行)

主催: 「緑と水、そして比叡山に親しむ会」
実行委員会

参加証は下記ホームページをプリントアウトしてもご利用になります。
<http://www.hieizan.or.jp/>

ペットボトルにびわ湖や鴨川または身近な水を入れて比叡山に集合!!
比叡山上の草木に水を注ぐことで緑を育み、水の浄化を手助けしましょう。
びわ湖・鴨川の水は山上にも用意されています。(自給は2杯飲んだとき)

グリーン・ウォーター・エイド & ウォーク in 比叡2005

参加無料

家族・友達と比叡山を歩こう!

お問い合わせ先
「緑と水、そして比叡山に親しむ会」
実行委員会事務局 (比叡山延暦寺内)
TEL.077-578-0001

日時 平成17年4月23日(土) 場所 比叡山上 東塔~横川【約6km】
AM9:30 ~ PM3:00 (雨天決行)

(現地までの公共交通機関及び通行料、一部施設は有料となります)
*延暦寺国宝殿、ガーデンミュージアム比叡などは有料

天台宗開創1200年

天台宗が平成18年に開創1200年を迎えることを記念し、比叡山延暦寺では諸方面の協力を得て4月23日(土)、「グリーン・ウォーター・エイド&ウォーク in 比叡2005」を開催いたします。
今年で2回を迎えるこのイベントは、「人作り・修行の山」としての比叡山延暦寺の歴史と文化を体感し、あわせて比叡山の自然に親しんでもらうことを目的に企画したものです。
生きとし生けるものとの「共生」の大切さを自然の現場で考えようと、当日はペットボトルに汲んだ琵琶湖や鴨川の水を比叡山山頂の草木に注ぎます。森の浄化作用を体験することで水の循環プロセスを理解し、私たちの生命を支える自然への感謝の念を培いたいと願います。
どうか自然とふれあひながら新緑の比叡山ウォーキングをお楽しみください。当日は各種イベントも行われます。左記の参加証をご持参のうえ、ぜひこの機会にご登壇ください。

New 新刊 Books

ひろさちやの「最澄」を読む 安心への道案内 最澄入門

「忘己利他」に学ぶ菩薩の心

本書は著者の「祖師シリーズ」の最後の巻。
なぜ最終巻が「最澄」なのかは著者の次の言葉で分かる。「大乘仏教の大道をしっかりと学べる修行の場を比叡山に設立してくれたおかげで、後世、比叡山から多くの仏教者・仏教思想家が輩出したのです。(中略) 最澄は日本仏教の最大の恩

人ではないでしょうか。もしも最澄がいなかったら、日本仏教はどうなっていたでしょう。わたしは最澄に、最高の讃辞を呈したいと思えます。

最澄その人、及びその思想についてはおびただしい書が著されているが、難解なものも多い。本書は一般向けに平易に、それでいて最澄の生涯とその思想の重要なポイントがきっちり押さえられており、理解し易くなっている。

何よりも現実の問題と絡めて解説してあることで、読者の興味を削がない。文章の裏に膨大な仏教思想の蓄積と理解があるからこそ難解な仏教教理を分かりやすく説けるのだろう。

例えば、「修業」と「修行」の違いについて、「一隅を照らす」の意味、「仏性」についてなど、著者ならではの切り口で解説しており、興味深い。最澄の生涯をたどりながら、当時の仏教の在り方、思

想の流れ、仏教論争、空海との関係などが自然と頭に入ってくるのは、やはり、著者の分かりやすい解説に因るところだろう。

一切衆生と共に歩む仏教を

生んだ最も澄める人―最澄。「わたしは、お釈迦様本来の意味に戻った仏教者として最澄を位置づけたい」と思っています」と著者は言う。

佼成出版社刊・1400円



雪が溶けて 川となって

中尊寺貫首 千田孝信

(1)

「あのね、ママ。ぼくがなげ生まれてきたのか知ってる？ぼくね、ママに会いたくて生まれてきたんだよ」
ある三歳児が母に語った言

赤ちゃんは目をらんらんと輝かせてまわりをみつめるのだそうです。まだモノがはっきり見えない目であっても、一杯に目を見張って、乳を採

ママ、知ってる？

葉だという。

母と子の出会い！これこそ人生の出会いのそもその原点だと感動させられます。

生まれて一時間から一時間半は「新生児覚醒」といって、

し母を求めているのです。

この時こそ、母親としっかり対面させなければならぬ決定的な時間だ、この時間でのこの出会いをもっと大切にしなければと、ある保育専門

家が唄唱しています。生まれてのわが子が食い入るように自分をみつめているのを見て「おれは、命に代えてもこの子を守る」と誓った父親もいるそうです。
出産は命がけ。母親の衛生医療も大切、保育上母子の隔離が必要なものもある。しかし三日間保育器に入ったままの赤ちゃんは、医師と決して目を合わせようとしないとい

う。たった生後三日の赤ん坊が、自分の意志として目を合わせないのだ。
「ぼくね、ママに会いたくて生まれてきたんだよ」
これは三歳児どころか、生まれたての赤ちゃんの切実な声ではないか。
この声に応える母親の慈しみ、それが「仏さんに巡り会う人生の旅路」の最も大切な出発点ではなからうか。



カット・坂東明「十一面観音像」(アトリエ・ウーフ)

素晴らしき言葉たち

「新しい靴をはいて」

岡林 美里

頑張りますとも 頑張れますとも

まだまだ やりたいた事だらけ

参りますとも 参れますとも

こんなトコじゃ終われない

やっちゃいますとも

やっちゃえますとも

なにしろ あたし：あたしだから：ね

新しい靴を 買いました

(手の届かない空が見たい・健友館刊より)

今、若い人たちは「出口がない」とか「自分を取り巻く重苦しい雰囲気」ということを言います。就職意欲がなく働かない「ニート無業者」と呼ばれる若者たちが急増しています。

そんな時代だからか、仏教が静かなブームだといえます。「仏教はブームになるような小手先ものではない」と叱られそうですが、自分の心を見つめなおそうという人々が増えているのは、やはり歓迎。それは「マインドフルネス」ばかりで考え

てきたことを「ハートフル

いきなり修行は無理ですが、掃除をしてみる、それが徹底的にしてみると、心の垢が落ちたような清々しさがあります。「こんなトコじゃ終われない」と思うのではないのでしょうか。表題詩は、若い女性のものでしようが、老女だと思っ

てきたことを「ハートフル

読むと、背筋がシャキッと伸びます。

あなたの中の 仏に会いに



天台宗は平成十八年に
開宗十二百年の記念の年を迎えます

詳しくは 〒520-0113
滋賀県大津市坂本4-6-2 天台宗務庁
天台宗開宗1200年慶讃大法会事務局
TEL 077-579-0022 FAX 077-578-4814
または、最寄りの天台宗寺院へ